



いぶき 第7号  
 発行者 原田 英雄  
 編集 患者サービス向上委員会  
 香川県丸亀市城東町3丁目3番1号  
 TEL (0877)23-3111  
 FAX (0877)24-1147  
 季刊誌 年4回発行  
<http://www.kagawah.rofuku.go.jp>

### 肝臓病について

内科 吉永 浩明

平成14年4月から住民検診でも肝炎ウイルス検査（C型肝炎抗体検査、HBs抗原検査）が実施されました。あなたが検診を契機に肝臓病と診断された場合どんな点に注意すればよいのでしょうか。また、お酒はどうなのでしょう。

肝臓病にはウイルスとは無縁とされている病気とウイルス性の病気（ウイルス肝炎）の二つに分類されます。ウイルスとは関係ない病気のうち大部分はアルコールが原因となります。アルコールは短時間のうちに大量



青野山から香川労災病院を望む

に飲酒すると肝臓の細胞が急激に破壊され（重症アルコール性肝炎）黄疸や意識障害が出現し死亡することもあります。

しかし、日本では10年以上といたった長期間に日本酒3合以上アルコールを飲酒し、そのために肝臓の細胞が徐々に脱落し肝臓の機能が落ちてくる（一般には慢性肝炎から重いつきは肝硬変になります）場合が多くみられます。「自分はアルコールに強い」という方は多いのですが、アルコールに強い方でも肝臓の細胞は確実にいたんでいきます。個人差はあるのですが、およそ300kgから1トンのアルコールを飲めば肝硬変になるとされています。これは日本酒5合を10年間飲酒すれば肝硬変になる危険が高くなる計算となります。特に毎日飲酒して休肝日をもうけない方や、お酒以外の栄養をとらない方は肝臓の障害が強くなります。

肝臓病を発症するウイルスにはA型、B型、C型、D型、E型、G型など多種類のウイルスが発見されています。そのうち慢性肝炎の原因となるのは主にB型肝炎ウイルスとC型肝炎ウイルスです。

現在日本ではB型肝炎感染者は150万人、C型肝炎感染者は215万人とされており、年々感染者は減少しております。ウイルス性の慢性肝炎の患者さんで注意する点は3点あります。第一には肝炎が進行し肝硬変になること、つまり黄疸や腹水がたまり日々の生活に支障をきたすこと、第二に肝硬変になり食道や胃の静脈瘤（静脈がこぶのようにふくれて

破れやすくなった状態です）ができやすくなること、また第三には肝ガンができやすくなることです。肝硬変になった患者さんで生命が脅かされるのは静脈瘤の破裂か肝ガンがほとんどの原因を占めております。そのため慢性肝炎の治療の目的は肝炎の進行を防ぐことおよび肝ガンの発症を予防することとなります。現在日本で使用されているウイルス肝炎の治療法は、ウイ

ルスの排除を促す治療と肝臓の炎症を軽減し肝機能を改善する（一般にはGOTとGPTが下がることを意味します）治療に大別されます。

### 形成外科 こんな科です。

形成外科 田中 均

患者さんの肝炎の状態やウイルスの量・型などで治療方針がそれぞれ異なります。ウイルス肝炎の患者さんは担当医とよく相談の上自分にあつた治療法を選択することとなります。

検診をきっかけに、いままでも健康で暮らしていた方の中にも肝炎の診断を受け、病院に来られる方が増えています。その多くは現在治療を受ける必要が無く、定期検査を受けるだけでよい方です。肝炎と診断されてもけつしておそれる必要はありませんが、担当医と相談されればいっそう安心していただけます。検診で異常を指摘されるか、疑問がある場合はぜひとも早期の受診をお勧めいたします。

- ・皮膚のアザや腫瘍を切り取る。
- ・傷跡やつっぱり、変形を修正をする。
- ・ヤケドや広い創に皮膚移植をする。

皮膚に病気がある場合、それを皮膚ごと切り取って縫いよせ

る必要があります。この場合縫合部には強い緊張がかかってくる。この緊張を少なくしないと、糸の跡が残ったり、幅広く醜い傷跡になってしまいます。そのために形成外科では、緊張のかかりにくい方向に切り取る、

皮膚の下を剥して寄せやすくする、皮膚の深い丈夫な部分に糸をかけて引き寄せる、そういった様々な特別な手技を用いています。

大きくて皮膚を引き寄せて縫合出来ない場合や、小さくても目や口の周りなどで、そのまま縫えば変形する場合は、局所皮膚を移動して塞ぐ方法を用います。さらに広い場合(ヤケドや悪性腫瘍を切り取った時)には皮膚移植が必要になります。目立つ傷跡は、単純に切り取って幅を狭くしたり、傷跡をシ

東5病棟は内科・循環器科病棟です。循環器科では心臓カテーテル検査を中心とした検査入院の患者様をはじめ、心筋梗塞・狭心症・心不全・高血圧などの患者様の看護をしています。

心電図の観察や急変時のすばやい対応が要求される中で、私たちは患者様のちょっとした変化や訴えを見逃さないように、鋭い目を光らせ、耳を傾けています。と言ってもにらみをきかせているわけではありません。

患者様が声をかけやすいような看護師を目指して、笑顔はもちろんのこと明るく元気

ワに沿った方向に変えたり、凹凸やひきつれを取り除く事によって目立たなくすることが出来ます。ただ、魔法の様に完全に傷跡を消し去る事はできません。ですから外科的な治療だけでなく、傷を早くできるだけ綺麗に治すために、軟膏や特殊な治療材を使った治療も専門分野とし

### 活性酸素と抗酸化物質

栄養管理室長 平田 邦江

カラフルな食品を食べて、がんや動脈硬化、糖尿病、肌のしわ、痴呆といった病気や老化現象の原因として注目されている、活性酸素に負けないようにしましょう。

よく働いています。また、患者様が安心して入院生活を過ごせるように、そして満足して頂け



私たちの職場(東5病棟) 看護婦 長栄 恵理

るように頑張っています。

内科は呼吸器・消化器・内分 泌・血液疾患などの患者様が入

て取り組んでいます。皮膚の病気の多くは切り取らずに薬で治す事ができます。これは皮膚科の先生が専門ですが、当院には皮膚科が無くご迷惑をおかけ致しております。まず、お近くの皮膚科の先生や、かかり付けの先生に診ていただいで下さい。

象の原因として注目されている、活性酸素に負けないようにしましょう。

院されており、化学療法を受ける患者様の看護も行っています。最近ではカルテの情報開示とともに病名告知が進んでおり、がん告知を受けて病気を理解した上で治療に取り

組む患者様が増えていきます。患者様とその家族は、治療に対する不安や生活への影響・副作用に関しての不安も様々で、その思いを知ることは簡単ではありません。

私たちは治療を頑張っている患者様と家族の肉体的・精神的援助に努めています。患者様の苦しみを少しでも緩和できるように優しい言葉かけや対応を心がけています。



● 労災病院周辺で見られる鳥 ● カワラヒワ

主任薬剤師・吉村正則

小さい色、飛良河ご飛、味が通り、色が黄色の好まれる。オリーブ色の名地見「キリキリ」と羽立ち荒れに「キリキリ」と目等普通が「コ」と原く普通が「コ」とコ口と解る。

私たちは酸素がなければ生きていけません。酸素は一方で強い殺菌力(毒素)を持っています。活性酸素は空気中の酸素が活性して反応性が高くなり、毒性がさらに強力になっています。活性酸素は体内でエネルギーを産生するときや、酵素の反応によって発生します。

また、ストレス、タバコ、アルコール、紫外線・放射線、環境汚染物質、炎症、薬物、運動などによっても発生します。殺菌・消毒作用があり必要な物質ですが、過剰になると病気や老化の原因となります。では、活性酸素を除去する食べ物にはどんなものがあるのでしょうか。

活性酸素の働きをおさえる物質には酵素、ビタミンとそれ以外の抗酸化物質があります。特にビタミンE、C、β-カロテンです。これらは互いに協力し

合ながら活性酸素を消去していきます。その他の抗酸化物質としてカロテノイドやフラボノイドは緑黄野菜(ブロッコリー、ほ

うれん草、小松菜、春菊、ニラ、パセリ、しそ、モロヘイヤ、あしたば、人参)など色の濃い食品に含まれています。

リコピンはトマト、スイカ、赤ピーマンなどの赤色、ゼアキサチンはマンゴー、パパイヤ、かぼちゃなどの黄色、アントシアニンは黒豆の黒色、ぶどう、なすなどの紫色、(皮も食べましょう)カテキンは緑茶、紅茶、チョコレートなど、アスタキサンチンはイクラ、サケの身、カニの甲羅、エビなどの赤色に豊富です。

大豆にはイソフラボンが豊富で納豆はさらにアップ。アーモンド、ピーナッツ、ヘーゼルナッツなどのナッツ類、ウナギ、ハマチ、サンマ、ブリにはビタミンE、ごま、ごま油にはセサミン、海草には緑色のクロロフィルが豊富です。

もうすぐ春です。食卓も色とりどりの食品で飾ってみませんか。活性酸素に負けない食生活で病気と老化を予防しましょう。

昨年12月から始まった丸亀市猪熊弦一郎現代美術館での私の個展、風土記と書いて「さぬきうた」と読ませる。約3ヶ月ものロングランの個展は私にとってもはじめてのことで、この美術館の空間に合わせて作品を造った。一つ一つの作品はもとより、部屋全体が一つになった展示も私にとつてうれしい出来事だった。

四国丸亀で開いたこの展覧会が美術誌の特集記事になったり各新聞社が東京取材の全国版になって、地方から全国へ発進する結果となったこともあって、香川の地で制作した作品が丸亀で発表され、全国から人が集まって来るという、若い頃から夢見ていた私の想いを実現したうれしさは何ものにも変えがたい出来事となった。

この展覧会を企画して下さった丸亀市や美術館の方々にお礼を申し上げたい。

多度津に住んでいる私にとつては丸亀は我が街のようなもので、特別なことのない限り館へ



出向いて見に来て下さった人々と話をするのも楽しみの一つである。

ギャラリートークも数回あって観る側の気持ちがよく伝わって来るのもうれしい。

「シローちゃんと遊ぶう」というタイトルでワークショップ

も2回開いた。第一回目は子供たちとの粘土遊び、小さな手が懸命に動いてまたたく間に2時間過ぎる。

机上の土が全部無くなる程に作品を造る子がいるかと思えば、いいいに2個程の作品に取り組み子供もいて様々なものが出

来上がつて行く。あまり規制をしなかったためか、面白い造形がどんどん出来上がるのがたまらなく楽しくうれしい。

この子たちのたくましい創造力をこわさないようにしたいものである。今の学校では中学、高校と進むうちに豊かな創造の芽がすみ取られて行くこともあるかも知れない。

このまま育て行けばみんな造形家になってしまいうると思う程である。

この造形物は私の作品をいつも焼いている多度津の三谷瓦工場へ持ち込まれて瓦焼となった。子供たちも親たちも、はじめての出来事に満足している様子だった。

もう一つ大人の部があった。さすがに集まってくださった方々は面白いものを造る。やはり自分の手の大きさに合った大きい作品が出来て行く。はじめて土にさわる方もいた様子だが、とても面白いものが出来る。

若い母親が、小さい子供を車に乗せて受講していた。子供が目をさましてなき出したとたんに左足で車をゆすりながら手は土をこねている。何となく美しい日本のお母さんなのかとうれしくなつて見ていた。そのうち子供がねむると粘土に集中、子供がなき出すと左足が動く、ほ

### お知らせ

ほえましく見ている私の前で作品が仕上がつて行く。

他の方もとてもいい作品が出来て行く、この作品も瓦屋さんで銀灰色の美しい作品に変身する。

ワークショップやギャラリートークで多くの人々とふれ合える展覧会は私にとって大変うれしく楽しいものとなった。

#### 糖尿病教室

3月7日(金) 15時～1時間  
 ●糖尿病の検査について・糖尿病の薬について  
 (講師 岡本内科副部長・薬剤師)

3月14日(金) 15時～1時間  
 ●食事について  
 (講師 平田栄養管理室長)

3月28日(金) 15時～1時間  
 ●合併症について・足のケアについて  
 (講師 岡本内科副部長・看護師)

4月4日(金) 15時～1時間  
 ●糖尿病について・薬物療法について  
 (講師 岡本内科副部長・薬剤師)

4月11日(金) 15時～1時間  
 ●食事療法について  
 (講師 平田栄養管理室長)

4月18日(金) 14時～1時間  
 ●運動療法について  
 (講師 理学療法士)

4月25日(金) 15時～1時間  
 ●糖尿病について・口腔ケア

5月2日(金) 15時～1時間  
 ●糖尿病について・薬物療法について  
 (講師 岡本内科副部長・看護師)

5月9日(金) 15時～1時間  
 ●食事療法について  
 (講師 平田栄養管理室長)

5月16日(金) 14時～1時間  
 ●運動療法について  
 (講師 理学療法士)

5月23日(金) 15時～1時間  
 ●糖尿病について・足のケアについて  
 (講師 岡本内科副部長・看護師)

#### 息切れ教室

毎月第4金曜日の午後3時から1時間程度です。

3月 呼吸法を学ぶ

4月 息切れの評価

5月 肺気腫・慢性気管支炎・喘息の治療について

外来診療予定表

診療科	時間・診察室	月	火	水	木	金	
内科	午前	一診	多田	中村(之)	多田	渡邊	中村(之)
		二診	松村	海野	松村	海野	中村(武)
		三診	塩見	水尾	吉永	塩見	吉永
		四診	幡	野口	岡本	野口	岡本
		五診		糖尿 石田			
	午後		糖尿 石田	呼吸器 中村(之) (再来のみ)			
循環器科	午前	曾根	渡邊	幡	水尾	曾根	
	午後		ペースメーカー			振動	
外科	午前	一診	鶴野	津村	香川	鶴野	津村
		二診	國土	立本	渡辺	村岡	池田
	午後		呼吸器 津村	肝胆膵 香川	※乳腺 鶴野・村岡		
整形外科	午前	一診	永井	大茂	横山	永井	立花
		二診	高田	高田	立花	大茂	横山
	午後	リウマチ外来		リウマチ外来	脊椎外来	小児外来	
リハビリテーション科	午前	時岡	時岡 (再診のみ)	時岡	時岡	時岡	
	午後			装具診		腰痛外来(第2・第4)	
形成外科	午前	田中	田中	田中	田中(午後)	田中	
脳神経外科	午前	一診	藤本	吉野	寺井	藤本	吉野
		二診	寺井	柚木		中川	
	午後	中川(Xナイフ)			柚木		
神経内科 メンタルヘルス科	午前	一診	中島	小山	中島	中島	小山
		二診	小山		小山		中島
泌尿器科	午前	一診	西	西	水野	西	西
		二診	水野	真鍋	倉繁	真鍋	水野
産婦人科	午前	一診	川田	友國	川田	木下	友國
		癌検診	木下	木下	友國	川田	木下
	午後	産科予約検診	友國		木下		川田
		産後検診				交代制	
眼科	午前	一診	小見山	小見山	小見山	小見山	小見山
		二診			國土		
耳鼻咽喉科	午前	一診	森下	森下	森下	萩池	森下
		二診	江口	江口	江口	江口	江口
	午後			小児外来			
歯科口腔外科	午前	一診	長谷川	長谷川	長谷川	長谷川	長谷川
		二診				☒長島・谷崎	
麻酔科(ペインクリニック)	午前	北浦	佐牟田	北浦	佐牟田	北浦	
ストマ外来	午前		佐藤看護師		佐藤看護師		

※乳腺 外来 鶴野(第1・3・5木曜日)・村岡(第2・4木曜日)  
☒歯科口腔外科 長島(第1・3木曜日)・岩崎(第2・4・5木曜日)

健診部

日帰りドック..... 1日20名 火、金曜日	海外派遣労働者の健康診断..... 随時
一般健診..... 1日20名 月、水、木曜日	特殊健康診断..... 随時
脳ドック..... 1日1名 月、火、木曜日	振動障害健康診断..... 1~3名 金曜日
雇入時の健康診断 ) ..... 1日30名 (隔週) 水曜日	健診車による出張健診..... 月~金曜日
定期健康診断	丸亀市住民検診 ..... (6~9)月~金曜日

※全ての健診は予約が必要です。 ※健診の曜日は変更になることがあります。

- 当院は、政府管掌健康保険生活習慣病予防健診事業の指定病院となっており、該当する方は補助を受ける事が出来ます。
- 健診の結果、二次検査が必要となった場合、内科系・乳腺外来のみ当院で予約を行っております。

# 脳神経外科の紹介

脳神経外科 藤本俊一郎

脳神経外科は、神経系(脳、脊髄)にできた腫瘍や血管障害(出血や梗塞)、また首や腰の脊柱管狭窄、外傷に対して外科的手術、血管内手術、放射線を用いて、治療する診療科です。

緊急を要する病気、例えばくも膜下出血、脳内出血に対して迅速に検査、診断をくだして緊急手術を行っています。脳への血流あるいは脳内の血流が途絶えたり、減少するために生じる病気に対しても、脳血管撮影を行い、適応があれば、脳血管内手術(カテーテルを用いて閉塞部を再開通させる)を積極的にに行っています。この方法は、カテーテルを介してコイルという細い金属線でくも膜下出血の原因となる脳動脈瘤を塞栓することもできます。カテーテルを用いた治療法は、切らずに治せることから、患者さまには負担が少ない治療です。生活習慣病の一つである動脈硬化により頸部内頸動脈が狭窄する病気があり、治療として血栓内膜剥離術を行います。症例数



脳神経外科 早朝カンファレンス  
後列左から：森(脳神経外科病棟薬剤師)、中川、柚木、中島(神経内科)  
前列左から：吉野、藤本、寺井

は年々増加しています。脳腫瘍の一部には、腫瘍部分に集中的に放射線(電子線)を照射して細胞を死滅させる定位的放射線療法が有用なことがあり、当科ではXナイフと呼ばれる装置を持ってこの治療にも対応しております。定位的放射線療法が行える施設は四国では当院を含め、2施設だけです。また、手足のしびれでお困りになり、脳神経外科を受診された患者さまのうち、脊椎あるいは脊髄に原因があることも多く、おもに頸椎・腰椎に対する治療も積極的に行っていきます。

ています。血管の病気は、多くの場合、症状がひどくなるほど、回復の可能性は低くなります。そのため一過性脳虚血発作(手や足の動きや感覚が悪くなってもまもなく治る)あるいは症状が軽い時点で、脳神経外科を受診されますと、病気の早期発見ができるため、早めに診察・検査をされることをおすすめします。

脳神経外科学会で認定された脳神経外科医)が診療にあたっており、全ての領域の脳神経外科疾患に対応しております。各医師はさらに下記のような専門性を持って研鑽に励んでいます。  
藤本俊一郎 閉塞性脳血管障害  
害 脊髄脊椎疾患  
吉野 公博 脳血管内手術  
寺井 義徳 脳血管内手術  
中川 実 脳腫瘍、Xナイフ(定位的放射線療法)  
柚木 正敏 脊椎脊髄疾患

## 薬剤による尿の色調変化について

薬剤部長 平松 龍磨

今後、高齢化がさらに進みますと、動脈硬化のために脳血管障害が増加することが予想されます。

昔、青い液体を使って吸収力のよさを売り物にしている紙おむつのCMを見て、若いお母さんが「うちの子は、あんな色のおしっこはしないんですけど」と小児科医に相談したという笑うに笑えぬ話を聞いたことがあります。健康人の尿は、通常、淡黄色ないし黄褐色をしています。しかし、薬によって尿の色は変化する事があります。皆様がよくご存知の通り、ビタミンB2を含むビタミン剤を服用すると、尿が黄変し、臨床検査値にも影響する事があります。

また、糖尿病性末梢神経障害治療剤のエパルレストアットを服用すると、本剤及び代謝物の影響

又、糖尿病性末梢神経障害治療剤のエパルレストアットを服用すると、本剤及び代謝物の影響

「発熱、皮膚が紅みを帯びる、尿が赤みを帯びる、尿量が減る、尿が濁る、尿が出にくい、排尿時の痛み、顔や手足のむくみ、体重が増える」等の症状に気付かれた場合には、ネフロローゼ症候群の発症の可能性もありますので服用を中止して主治医に受診して下さい。

なお、寺井は昨年脳血管内手術専門医も取得しています。  
おわりに  
脳外科疾患は、早期診断、早期治療が必要な場合が数多くあります。緊急の場合も対応しておりますので、おかしいと思われるときは早めにお越しください。緊急の場合は救急車の利用を、緊急でない場合にはまずかかりつけの先生に診断していただき、紹介状を持って受診されること

が最良であると思います。

次に、ニューキノロン剤、ベザフィブラート、HMG-CoA還元酵素阻害剤(スタチン)など単独で、あるいはスタチンとファイブラート系薬剤やシクロスポリンと併用すると、横紋筋融解症が現れることがあり、初期症状として「手足のしびれや力が入らない、体の筋肉が痛い、全身がだるい、尿の色が赤褐色になる」等の症状が現れた場合は、服用を中止してすぐに主治医に受診して下さい。放っておくと腎不全になることもあります。尿の色が赤褐色になるのは、筋肉が障害され、筋の成分(ミオグロビン)が尿中にでてくるためです。何はともあれ、薬を服用して「尿の色が変だな」と思ったら直ぐに主治医か薬剤師にご相談下さい。

# 私がリハを志した理由

リハビリテーション科  
時岡 孝光

私はリハ医であるが存在をなかなか理解してもらえない。お年よりからは按摩の先生と呼ばれたり、リハースルの先生と言われることもある。

私はかつて整形外科医であったが、若いころは手術すればなんでも治ると錯覚していた。医者になって5年間は朝から夜中

今冬もインフルエンザが大流行し、多くの学校や保育園で休校になるなど大変な勢いです。高熱があつて、咳こんだりしてかかりつけ医や病院で診察を受けた方も大勢いらつしやると思いますが、このようなときのことを心掛けていただきたいと思います。

①先ず、かかりつけ医に診てもらいましょう。

以前にも、「かかりつけのお医者さまを持つといいですよ」と申し上げた事がありますが、長い間診て頂いておりますと、身体のを把握して下さっているのので、診察の結果適正な診断をされ必要であれば病院を紹介して下さると思います。

②紹介状をお持ちください。

かかりつけ医からの紹介状には、今までの診断内容が書かれておりますから、患者さまの現在の症状を把握することができ、いち早く治療計画を立てる

## 体の具合が悪くなった時

医事課長  
桐生 勝幸

ことが可能になりますので、この紹介状は、患者さまのかかりつけ医と病院との間の診療情報を伝達する大変大切な役目をしていられるものであるということをご理解いただきたいと思います。

紹介状をお持ちになると、かかりつけ医でおやりになった検査やレントゲン結果は紹介状に書かれていますので改めて実施する必要がない場合もあり、その分診療時間が短くて済み、二重出費もしないですむことがあります。

③時間内診察をお勧めいたします。

時間外診察の場合は、限られます。

まで、手術、手術の毎日だった。自分で手術できるようになると、さらに有頂天になった。夜間の緊急手術がはじまると胸が躍った。

そんな時、転機が訪れ、子供のリハビリ施設へ転勤となった。脳性小児麻痺の子供を治療するわけだが、手術はめつたになく、

た医師・看護師等の人員で患者さまの診療に当たらなければなりませんし、レントゲンや検査機械も通常のように全てが動いている訳ではありませんので、どうしても応急的な処置しかできない場合があります。

このような場合は、「明日必ず時間内診察を受けてください」と申し上げていますが、仕事の都合上受診されない方もおられます。健康が第一です。早い時期に、当院でなくても診療時間内にかかりつけ医を受診するなど、徹底的に治療するよう心掛けてください。

熱があつたり、痛みとか気になる症状が現れたならば、すぐにかかりつけ医に診てもらおうよう、日頃から心掛けておかれることをお勧めいたします。

退屈な毎日であった。

リハビリは赤ん坊のときから始め、何年にも及ぶが、それでも歩けるようにはならない。交通事故や水難事故で重度の障害を持った子供もたくさんいた。診察するだけで辛くなり、逃げ出したくなった。早く一般病院へ転勤したいと希望したが、2年が過ぎ、3年目になった。

この頃には現代医学の限界を知り、社会から見捨てられた障害児たちはどんなに治療しても治るわけではないと悟った。

そんなある日、一人の老夫婦が私の所に包みを大事そうに持って来た。そして私にぜひそれを見て欲しいと言った。それはオマルに入ったウンチであった。それは障害のある10歳のお孫さんが、何年もリハビリを続けてやっとオマルに座ってウンチが出せたものであった。それは家族にとって宝物であ

り、トイレに流すのがもつたいたなく、みんなに見せてまわっていると言う。涙を流しながらオマルをだきしめ、喜んでいる老婦人の姿は、今まで見たことの無い光景であった。治るとか、治らないという次元で人間の病気を診ることが無意味に思えた。

その日以来、私はリハビリテーションに真剣に取り組んでいる。どんなに上手に治療、手術しても決して元通りには戻らないし、老化を止めることはできない。リハビリは奇跡を起こすものでもない。

しかし、残された機能を訓練し、少しでも機能が向上すれば喜びは大きい。安易に介護へ走ってしまう最近の医療に対し、障害者を少しでも自立させるべく、立ち向かいたい。できることはなんでも自分でやってみよう、と私は叫び続ける。そして、いつも初心を忘れずに・・・。

## 編集だより

患者サービス向上委員会  
後藤 正作

寒さも緩み、一雨ごとに春めいてまいりました。

今回も皆様のお役に立つような情報を掲載しておりますのでご一読ください。

患者サービス向上委員会で

は、様々な病院情報を提供してまいります。読みやすくして、解りやすい情報誌にしたいとがんばっております。皆様のご意見・ご要望をお待ちしております。